## 音楽科の実践

教科担当者 田村美栄

- 1 めざす生徒像
  - (1) 互いのよさを認め合いながら、意欲的に表現しようとする生徒の育成
  - (2)音楽を愛し、豊かに感じ取り、表現する生徒
- 2 研究内容と実践例
  - (1)研究内容 より
    - ペア、グループ学習活動の積極的な取入れ

リコーダーの学習

互いに教え合い練習することで、コミュニケーション能力を高め、技術 的な基礎基本の定着を図る。

鑑賞の学習

感想や気付いたことを互いに話し合い、伝える表現力を養い、様々な感 じ方があることを認め合う態度を養う。

(2)研究内容 より

生徒の興味・関心を高める指導内容の工夫・改善

教材の選択

- ・生徒の身近なところからも教材として適したものを選択し、興味をも って意欲的に取り組ませる。
- ・教材、教具の組み合わせを工夫し、より効果的にめざす生徒像にせま る。

視聴覚教材の活用

模範演奏や、生徒自身の活動を視聴する機会を多くとり、自ら課題を見 付け、より積極的な表現活動に向かわせる。

- 3 成果と課題
  - (1) 限られた時間数の中で表現活動を充実させようとすると、一斉指導によることが多いが、アンケートの結果から、「授業で扱った歌やリコーダーが演奏できるようになったか」という問いに、歌唱では全校生徒の81%が肯定的な回答をしているが、リコーダーの学習では、61%である。このことから、リコーダー学習において不十分であると感じている生徒が多いのがわかる。そこで、リコーダー学習で個人個人が少しでもその課題に自分なりの達成感をもてるよ

うにグループ学習活動を取り入れた。その結果、今まで運指や楽譜が読めなく て自分で進めることができなかった生徒が、グループの友達に教えてもらうこ とで学習が効率よく進み、活動に活気も感じられるようになってきた。その日 の自己評価表に「くんが教えてくれたのでよかった」ということを書いて いる生徒もいた。この活動では、教え合えるレベルのグループ分けと、できな い生徒が「教えて」と言えるような日頃の関係づくりが重要である。

鑑賞の学習においても、感想をグループで述べ合う時間を取るようにした。 しかしアンケートの結果から、「グループで鑑賞の感想を述べ合うのは難しい と感じますか」の問いに、全校生徒のおよそ40%が「難しい」と答えている。 しかし、学年別の回答では、学年が上がるにつれて互いの人間関係もよくなる のか、抵抗が少なくなっている。このような結果が出ているが、一方では、「グ ループで鑑賞の学習をすることは大切だと考えますか。」の問いに、約85% の生徒が肯定的に回答している。このことからも、現段階ではまだ実施回数も 少なく難しいが、継続して行い、経過を見ていきたいと考える。

(2) 歌唱指導では愛唱歌集を使用し、教科書の楽曲に興味があまりもてない生徒の心にも届くようなポップス曲なども、導入として扱うようにしている。声を出すことへの抵抗をなくし、歌う楽しみが体感できるように心がけている。アンケートの「学習内容に興味がもてるように歌集が使われていたと思いますか」の問いには全校生徒の84%が肯定的に回答している。また、日本の伝統的な音楽の学習としては、箏を取り扱い、誰もが実際に弾く体験をした上で、鑑賞活動に入った。さらに箏による古典曲と現代曲の比較鑑賞をした結果、感想の中には、古典のよさを感じ取っている生徒も多かった。また、鑑賞後再度、箏を弾く時には、本物に近い音色で様々な技法を実際に試してみたいという意欲にもつながった。常に生徒の興味や関心に働きかける教材を組み合わせていくことが必要であると強く感じた。

クラス合唱の練習では、ビデオを視聴することで、多くの生徒が自分たちの 課題を見付けていた。聞くだけではなかなか課題が見付けられない段階の生徒 も、見ることによって、「自分たちが考えているより口が開いてなくて表情が ないと思った。」とか、「指揮を見ていない人がいるから、見た方がいい。」な どの課題を見付けることができた。また学習意欲の高い生徒の中には、「 の部分が、言葉がはっきりしていない」とか、「の部分は主旋律ではない 男子の声が大きすぎる」など、改善したい点を具体的に聞き取っている生徒も いるので、それを活かして練習していくことで、全体の意欲を引き上げたい。







